

## 令和7年度第2回教育課程編成委員会 議事録

日時：令和8年3月16日(月)11時00分～12時00分(予定)

場所：多摩リハビリテーション学院専門学校 学院ホール 201 教室

教育課程編成委員：林義巳学院長、岩戸徹副学院長兼教務部長、(作業療法学科) 鎌田小百合学科長・中村晃一主任・横濱秀征主任、(理学療法学科) 佐藤讓司学科長・成塚修一主任・西井琢馬副主任、(言語聴覚学科) 木村欣司学科長・西片裕主任、(介護福祉学科) 鈴木健二郎学科長・竹内克主任、黒田英寿事務長(青梅商工会議所常議員)、景山雄介広報課長、師岡静枝情報システム課長、大堀隆二氏(社会福祉法人一石会統括施設長、青梅商工会議所常議員)、鈴木康雄氏(医療法人社団和風会リハビリテーション部長・PT)、人見太一氏(杏林大学)、池田健祐氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション科技士長・OT)、赤松栄晃氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション科課長・ST)、浦島秀之氏(一般社団法人国際高齢者支援協会)、委員 21 名

### 記

#### 1. 報告事項

(1) 各学科から令和7年度報告(各学科長)-令和8年3月3日時点-

- ①卒業生数、国家試験結果
- ②入学者数(令和8年度入学予定者数)、進級者数、留年者数、退学者数
- ③講義、臨床実習の学生状況
- ④カリキュラム編成について

(2) 講義・臨床実習の協力要請について(岩戸副学院長兼教務部長)-令和8年3月10日時点-

#### 2. 意見交換(外部委員からご意見・ご提案等)

#### 3. その他

以上

#### 1. 報告事項

全体

①卒業生数、国家試験結果：各学科報告参照

②入学者数(令和8年度入学予定者数)、進級者数、留年者数、退学者数

入学予定者数 135 名充足率 84.4%(PT44 名 110%,OT30 名 75%,ST30 名 75%,CW31 名 77.5%)

329 名(進級(卒業含)299 名 90.88%,留年 8 名 2.43%,休学 7 名 2.13%,退学 16 名 4.86%)

(1) 各学科から令和7年度報告(各学科長)-令和8年3月3日時点-

1)理学療法学科

①令和7年度卒業生数, 国家試験結果

卒業生数 38名,国家試験結果(自己採点)33名 86.8~92.10%(点数未達3名,ボーダーラインが2名).

②入学者数(令和8年度入学予定者数)、進級者数、留年者数、退学者数

入学者数(令和8年度入学予定者数)44名

進級者数,留年者数,退学者数

125名(進級(卒業含む)118名 94.4%,留年2名 1.6%,休学4名 3.2%,退学1名 0.8%)

1年生 44名(進級 43名 97.73%,留年0名 0%,休学1名 2.27%,退学0名 0%)

2年生 39名(進級 37名 94.97%,留年0名 0%,休学1名 2.56%,退学1名 2.56%)

3年生 42名(卒業 38名 90.48%,留年2名 4.76%,休学2名 4.76%,退学0名 0%)

③講義、臨床実習の学生状況

a.1年生：12月末に1名心理的不安より休学者がいる.その他,現時点で特に大きな問題は起きてない.今年度は高卒からの現役以外の学生が6名(社会人経験5名,その他1名).今年度はオリエンテーションを1週間(例年2コマ程度)行い,高等教育への円滑な接続を行い,在校生交流での満足度が高かった.引き続き,カリキュラム・ポリシーである「幅広い知識ならびにコミュニケーション技術を修得するために自発的な講堂ができるよう育成する」ためにバックアップする.

b.2年生：5月末に1名心理的不安より休学者がいる.今年度より,既存のカリキュラムであるが,模擬患者を想定した検査測定実技を20分以内,動画で撮影,個人および教員からのフィードバックを実施した.評価実習の準備につながるよう配慮した.カリキュラム・ポリシーである「これまでに修得した知識や社会性をもとに理学療法を実践できる力を育成する」ためにバックアップする.

c.3年生：総合臨床実習,就職活動,国家試験とイベントがあった.カリキュラム・ポリシーである「対象者に寄り添い,問題解決に惜しみない力を発揮するための専門知識・社会性を育成する」ためにバックアップする.年内就職内定率90%以上,国家試験合格率は100%(最低でも90%以上)を引き続き目指す.

④カリキュラム編成について

今後見込まれる指定規則の改正に合わせ,カリキュラムの一部変更を検討している.別紙あり.

⑤その他

学科目標：令和7年度のテーマ：『俯瞰と創造 2.0』【読み】ふかんとそうぞう 2.0

【変更しない理由】昨年と同様のテーマである.理由は,建学の精神である「地域の医療福祉に貢献する人材の育成」を達成するために教育理念と教育目標の定性目標を掲げている.定性目標を達成するために定量目標として入学者定員充足,退学率0%,国家試験合格率100%が挙げられる.昨年度,未達部分や細かい修正のためバージョンアップとしての2.0とした.【意味】自分自身や周囲,学生を俯瞰(客観視できる)と新しいものを自分でつくる(創造)が今後も必要である.また,世の中はSociety5.0のスマート社会(情報を探しに行かなくても勝手に降りてくる社会)に向かっており,様々な情報や価値観の変化がみられる.それらを知とするならば,様々な組合せや融合から結果を出すことがマネジメントである.我々教員は現状に留まることなく,知をアップデートし学院の魅力となるようなマネジメントならびに学生指導を行う.

## 2)作業療法学科

### ①卒業生数、国家試験結果

卒業生 24 名,国家試験自己採点合格率 100%

### ②入学者数(令和 8 年度入学予定者数)、進級者数、留年者数、退学者数

入学者数(令和 8 年度入学予定者数)30 名

進級者数、留年者数、退学者数

88 名(進級(卒業含)70 名 79.5%,留年 6 名 6.82%,休学 2 名 2.27%,8 名退学 9.09%)

1 年生 31 名(進級 24 名,留年 0 名,休学 1 名,退学 5 名,検討中 1 名)

2 年生 25 名(進級 22 名,留年 0 名,休学 1 名,退学 1 名,復学 1 名)

3 年生 32 名(卒業 24 名,留年 6 名,休学 0 名,退学 2 名)

### ③講義、臨床実習の学生状況

講義では熱心な学生と無気力な学生の二極化が大きい。学習態度は学生間の交友関係に影響し、グループワークや実技練習の進行を困難にしている。また、学内学習の差は実習での経験の量と質にも影響している。今後 CCS の実習形態で模倣・実施が少ないまま実習を終える学生も想定され、デイリーノートや口頭試問などで実習の学びを十分に評価できるようルーブリックの精査・活用を進めていく。

### ④カリキュラム編成について

今後見込まれる指定規則の改正に合わせ、カリキュラムの一部変更を検討している。別紙あり。

## 3)言語聴覚学科

### ①卒業生数、国家試験結果

卒業生数 24 名,国家試験結果 24 名中 16 名合格予定(自己採点合格率 67%)

### ②入学者数(令和 8 年度入学予定者数)、進級者数、留年者数、退学者数

入学者数(令和 8 年度入学予定者数)30 名(うち東京都委託訓練生 15 名)(3/1 現在)

進級者数、留年者数、退学者数

58 名(進級(卒業含)53 名 96.36%,留年 0 名 0%,休学 2 名 3.45%,退学 4 名 6.90%)

1 年生 33 名(進級 29 名 91.38%,留年 0 名 0%,休学 0 名 3.03%,退学 4 名 12.12%)

2 年生 25 名(卒業 24 名 96%,留年 0 名 0%,休学 1 名 4%,退学 0 名 0%)

### ③講義・臨床実習の学生状況(各学年の実習・内容)(令和 7 年度学生)

#### a.1 年

ほとんどの学生が勉強熱心であり、放課後に自己学習をしたり、教員の補講等を積極的に受けたりしている。成績が低い学生には、個別指導を重点的に行うなどの対応をしている。また、協調性があり、セラピストとしての資質を持っている学生も多いが、自己中心的で協調性に乏しく、周囲からも疎んじられている学生が若干名いる。これら一部の学生の影響で、クラスの雰囲気が悪化する状況も起きている。学生個人間での関係トラブルから、教員へ相談するケースも増えている。発達障害や病弱体質、精神障害の既往を抱える学生もあり、個別配慮が必要となっている。発達障害のある学生 1 名が、心理的問題で登校困難となり、退学となった。

#### b.2 年

令和 8 年 2 月 21 日に国家試験が無事終了した。国試対策に集団講義と個別指導を行っているが、集団講義の内容が良くなり、回数も増やせたことから、個別指導の時間は昨年より少なくなった。しかし、基礎的学習能力が低く、問題文が理解できないレベルの学生には、丁寧な個別指導が必要とされた。臨床実習の形態は、症例担当型(従来型)が

9割以上であり、実習参加型の割合は少ない。しかし、次の指定規則の変更時に実習形態の見直しができる可能性がある。実習指導者との連携を継続しながら、対応できるように備えておく。

#### ④カリキュラム編成について

a. 言語聴覚士養成所指導ガイドラインの改正に伴う、教育課程の変更について

令和7年10月22日に東京都の変更承認申請が受理され、令和8年4月1日より新教育課程で運用する。

b. 臨床実習前後の知識・技能に関する到達度評価及び臨床実習後の振り返りの必修化について

臨床実習前後の評価を行うために、客観的臨床技能検査(OSCE)が必要となる。令和9年度では、総合臨床実習前(7月)と後(11月末)に実施する予定である。その際、医療法人和風会を始めとする実習連携施設と協働し評価を実施する予定である。

#### ⑤その他

a. 学習上必要とされる設備・機器のうち、新規に必要なとされるものや旧型になりすぎたものについては、『東京都私学財団私立専修学校教育環境整備費助成金事業』を利用して購入する(令和10年まで継続購入)。

b. 令和8年度の臨床実習地変更承認申請として、東所沢病院、秩父第一病院、相愛病院、所沢美原総合病院を新規申請する。

### 4) 介護福祉学科

#### ①卒業生数、国家試験結果

卒業生数、22名、国家試験結果(自己採点)、23名中22名受験、1名未受験。

近年ベースの65点基準合格率：合格15名 68.2%、日本人5名 62.5%、留学生10人 71.4%

クラス全体平均点 74.9点、日本人学生 78.9点、留学生 72.6点

#### ②入学者数(令和8年度入学予定者数)、進級者数、留年者数、退学者(除籍者)数

入学者数(令和8年度入学予定者数)31名(日本人4名、社会人1名、留学生26名)

61名(進級(卒業含)58名 95.08%、留年0名%、休学0名0%、退学(除籍含)3名 4.92%)

退学者(除籍者)数3名(留学生3名(中国1名、ベトナム1名、バングラデッシュ1名)退学者は全て留学生となっており、日中関係の悪化を理由に国家試験直前に無断帰国をしてそのまま音信不通となっている学生がいる。全員学費未納分があり、このような事態が起きた時の学費の請求や補填が今後の課題となっている。

1年生37名(進級36名、留年0名、休学0名、退学1名)

2年生24名(卒業22名、留年0名、休学0名、退学(除籍)2名)

#### ③講義、臨床実習の学生状況

1学年36名は実習を延期した1名を除き全員が実習を終えることができている。今年度から日本語学習を日本人も含めて実施することで実習中に記録が時間内に書けるようになるなど良い効果が出ている。

#### ④カリキュラム編成について

令和8年度より、専門用語が多く学習が困難であった科目「発達と老化の理解」については、理解度向上を目的として2分割し、これまでの1年生前期・後期での実施から、1年生後期および2年生前期に分けて実施する。

また、多様な利用者を実習を通して理解した上で学ぶことが望ましい科目である「生活支援技術DI」については、実習との学習効果の連動を図るため、実施時期を1年生後期から2年生前期へ変更して実施する。

さらに、令和8年度入学生より、科目「福祉経営」はカリキュラムの見直しに伴い廃止とする。加えて、これまで1年次のみ実施していた「日本語教育」については、留学生支援および国家試験対策、JLPT対策の強化を目的として、2年次においても継続実施する。

資料1 確認済

## 2026(令和8)年度学校法人和風会 臨床実習規程事項

### 1. 実習曜日について

各施設内での規程に従う。

### 2. 実習時間について

各施設内での規程に従う。

ただし自宅学習時間含め1日当たり規定時間(8時間)を行うこととする。

### 3. 実習時間の内訳について

フィードバック時間も規定時間内に含める。

### 4. 症例発表について

各施設内での規程に従う。

### 5. 実習場所について

各施設内における実習生の実習場所は、実習指導者が各所属長の許可を得られた場所とする。

### 6. 出勤について

毎朝の出勤に先立ち、実習生は必ず体温チェックを行うものとする。

出勤可否の確認は必ず実習指導者ならびに学院教員に指示を仰ぐものとする。

以下に該当する場合は原則出勤を停止するものとする。なお、医療機関を受診し、その結果を伝えること。

平熱が36.5℃程度までの者が37.0℃以上の発熱があった場合

平熱が36.8℃程度の者が37.2℃以上の発熱があった場合

上記の事由により出勤を停止した場合、解熱後48時間の出勤停止とする。その後体調を確認し、実習地ならびに学院の許可の後出勤再開とする。なお、この事由による出勤停止期間は公休扱いとする。出勤停止期間の補填は学院内で行うものとする。

また、同居家族が上記発熱状況であった場合は、施設ならびに学院へ報告連絡相談後対応を決定する。

## 2026(令和 8)年度春季から夏季時法人内実習バス依頼人数について(案)

PTOTST 春季から夏季時法人内実習バス依頼人数について

多摩リハ病院 時期	PT			OT			計
	3年	2年	1年	3年	2年	1年	
5.11(月)-7.4(土)	1	0	0	3	0	0	4
7.6(月)-7.11(土)	0	0	0	3	0	0	3
7.21(火)-7.26(土)	1	0	0	0	0	0	1
7.27(月)-28(火)	1	2	0	1	4	0	8
7.29(水)-7.30(木)	1	2	0	1	4	0	8
7.31(金)-8.1(土)	1	2	0	1	4	0	8
8.3(月)-8.4(火)	1	2	0	1	3	0	7
8.5(水)-8.8(土)	1	0	0	1	3	0	5
8.10(月)-8.15(土)	1	0	0	1	3	0	5
8.17(月)-8.22(土)	1	0	0	1	0	0	2
8.24(月)-9.12(土)	1	0	0	1	0	0	2
9.14(月)-19(土)	0	0	0	1	0	0	1
9.21(月)-9.26(土)	0	0	0	1	0	0	1

別途 ST 臨床実習Ⅱが 2026(R7).7.6(月)-11.28(土)のうち 20 日間または 40 日間実施予定。

所沢リハ病院 時期	PT			OT			計
	3年	2年	1年	3年	2年	1年	
5.11(月)-7.4(土)	2	0	0	3	0	0	5
7.6(月)-7.11(土)	0	0	0	3	0	0	3
7.21(火)-7.26(土)	1	0	0	0	0	0	1
7.27(月)-28(火)	1	2	0	1	0	0	4
7.29(水)-7.30(木)	1	2	0	1	0	0	4
7.31(金)-8.1(土)	1	2	0	1	0	0	4
8.3(月)-4(火)	1	2	0	1	3	0	7
8.5(水)-8.8(土)	1	0	0	1	3	0	5
8.10(月)-8.15(土)	1	0	4	1	3	4	13
8.17(月)-8.22(土)	1	0	4	1	0	4	10
8.24(月)-9.12(土)	1	0	0	1	0	0	2
9.14(月)-19(土)	0	0	0	1	0	0	1
9.21(月)-9.26(土)	0	0	0	1	0	0	1

別途 ST 臨床実習Ⅱが 2026(R8).7.6(月)-11.28(土)のうち 20 日間または 40 日間実施予定。

資料 3

法人内依頼実習日程予定、ならびに依頼人数(案)

2026(令和 8)年度

【PT,OT】

総合臨床実習(3 年)

PT：前半 2026(R8)5.11(月)-7.4(土),後半 7.21-9.12

OT：I 期 2026(R8).5.11(月)-7.11(土),II 期 7.27(月)-9.26(土)

総合臨床実習	I 期			II 期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩ハ病院	1	3	4	1	1	2	2	4	6
所沢中央病院	2	3	5	1	1	2	3	4	7
所沢ハ病院	2	3	5	1	1	2	3	4	7
メイアースト	2	0	2	0	0	0	2	0	2
メイア梅の園	2	1	3	0	1	1	2	2	4
計	9	10	19	3	4	7	12	14	26

検査測定実習(=OT:評価実習 I)(2 年)

PT：I 期 2026.7.27(月)-7.28(火),II 期 7.29(水)-7.30(木),III 期 7.31(金)-8.1(土),IV 期 8.3(月)-8.4(火)

OT：I 期 2026(R8)8.3(月)-8.8(土),II 期 8.10(月)-8.15(土)

検査測定実習	PT(2 日間×4)				OT(5 日間×2)	
	7.27-28	7.29-30-	7.31-8.1	8.3-8.4	8.3-8.8	8.10-8.15
多摩ハ病院	2	2	2	2	3	3
所沢中央病院	3	3	2	2	3	3
所沢ハ病院	2	2	2	2	3	3
メイアースト	3	3	2	2	0	0
メイア梅の園	2	2	2	2	1	1
計	12	12	10	10	10	10

## 見学実習(1年)

I期 2026(R8).8.10(月)-8.15(土), II期 8.17(月)-8.22(土)

見学実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩リハ病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢リハ病院	4	4	8	4	4	8	8	8	16
メイケアイースト	0	1	1	4	1	5	4	2	6
メイケア梅の園	2	2	4	2	2	4	4	4	8
計	6	7	13	10	7	17	16	14	30

## 評価実習(OT 評価実習Ⅱ)(2年)

PT : I期 2027(R9).1.12(火)-1.30(土), II期:2.1(月)-2.20(土) OT : 2027(R9).1.18(月)-2.6(土)

評価実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	計	PT	OT	計			
多摩リハ病院	5	3	8	5	—	5	10	3	13
所沢中央病院	5	3	8	5	—	5	10	3	13
所沢リハ病院	5	3	8	5	—	5	10	3	13
メイケアイースト	2	0	2	2	—	2	4	0	4
メイケア梅の園	3	1	4	3	—	3	6	1	7
計	20	10	30	20	—	20	40	10	50

## 【ST】

臨床実習Ⅱ(2年)2026(R8).7.6(月)-11.28(土)のうち 20日間または 40日間

臨床実習Ⅱ	20日間	40日間	総計
多摩リハ病院	3	2	5
所沢中央病院	3	0	3
所沢リハ病院	4	1	5
メイケアイースト	3	0	3
メイケア梅の園	0	0	0
計	13	3	16

見学実習※(1年)Ⅰ期 2026(R8).7.27(月)-8.1(土),Ⅱ期 8.3(火)-8.8(土),Ⅲ期 8.10(月)-8.15(土),Ⅳ期 8/17-8.22(土)

臨床実習Ⅱ	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	総計
多摩リハ病院	2	3	2	2	9
所沢中央病院	2	2	2	2	8
所沢リハ病院	3	2	2	2	9
メイケアイースト	1	1	1	1	4
メイケア梅の園	0	0	0	0	0
計	8	8	7	7	30

臨床実習Ⅰ※(1年)Ⅰ期 2027(R9)2.1(月)-2.20(土),Ⅱ期 2.22(火)-3.13(土)

臨床実習Ⅰ	Ⅰ期	Ⅱ期	総計
多摩リハ病院	3	3	6
所沢中央病院	3	3	6
所沢リハ病院	3	3	6
メイケアイースト	2	2	4
メイケア梅の園	0	0	0
計	11	11	22

※ 入学予定者を30名として計算しております(8名分は外部施設)。

## 2027(令和9)年度

総合臨床実習(3年)

PT:前半 2027(R9).5.10(月)-7.3(土),後半 7.26(月)-9.18(土)

OT:Ⅰ期 2027(R9).5.10(月)-7.10(土),Ⅱ期 7.26(月)-9.25(土)

総合臨床実習	前半(Ⅰ期)			後半(Ⅱ期)			PT計	OT計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩リハ病院	5	3	8	3	3	6	8	6	14
所沢中央病院	5	3	8	3	3	6	8	6	14
所沢リハ病院	5	3	8	3	3	6	8	6	14
メイケアイースト	2	0	2	0	0	0	2	0	2
メイケア梅の園	3	1	4	1	1	2	4	2	6
計	20	10	30	10	10	20	30	20	50

検査測定実習(OT:評価実習Ⅰ)(2年)

PT：Ⅰ期 2027(R9).7.26(月)-27(火),Ⅱ期 7.28(水)-29(木),Ⅲ期 7.30(金)-7.31(土),Ⅳ期 8.2(月)-3(火)

OT：Ⅰ期 2027(R9)7.26(月)-7.31(土),Ⅱ期 8.2(月)-8.7(土),Ⅲ期 8.9(月)-8.14(土)

検査測定実習	PT(2日間×4)				OT(5日間×3)		
	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期
多摩リハ病院	2	2	2	2	3	3	3
所沢中央病院	3	3	2	2	3	3	3
所沢リハ病院	2	2	2	2	3	3	3
メイケアイスト	3	3	2	2	0	0	0
メイケア梅の園	2	2	2	2	1	1	1
計	12	12	10	10	10	10	10

見学実習(1年)

PT：Ⅰ期 2027(R9).8.16(月)-21(土),Ⅱ期 8.23(月)-28(土)

OT：前期 2027(R9).8.9(月)-14(土),後期 8.16(月)-21(土)

見学実習	前期			後期			PT計	OT計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩リハ病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢リハ病院	4	4	8	4	4	8	8	8	16
メイケアイスト	0	1	1	4	1	5	4	2	6
メイケア梅の園	2	2	4	2	2	4	4	4	8
計	6	7	13	10	7	17	16	14	30

評価実習(2年)

PT：Ⅰ期 2028(R10).1.11(火)-1.29(土),Ⅱ期 1.31(月)-2.19(土)

OT：2028(R10).1.17(月)-2.5(土)

評価実習	前期			後期			PT計	OT計	総計
	PT	OT	計	PT	OT	計			
多摩リハ病院	5	3	8	5	—	5	10	3	13
所沢中央病院	5	3	8	5	—	5	10	3	13
所沢リハ病院	5	3	8	5	—	5	10	3	13
メイケアイスト	2	1	3	2	—	2	4	1	5
メイケア梅の園	3	1	4	3	—	3	6	1	7
計	20	11	31	20	—	20	40	11	51

## 2026(令和8)年度法人授業依頼(案)

## PT 学科

依頼施設名	依頼講師名	継続/ 新規	依頼科目名	学年	前期/ 後期	依頼コマ数
多摩リハ病院 所沢リハ病院	補助講師 2 名	継続	理学療法評価法 I	2	前期	3 コマ×14 回
各施設	補助講師 5 名	継続	総合臨床実習前実技試験	3		6 時間×1 回
所沢リハ病院	池田祐輔先生	継続	神経内科学	2		1 コマ×15 回
所沢中央病院	講師 2 名 (中島,青山先生)	継続	運動器疾患患者への PT 治療学 I	2		2 コマ×6 回 2 コマ×7 回
法人リハ部	鈴木康雄先生	新規	オリエンテーション	1		2 コマ×1 回
多摩リハ病院 所沢中央病院	講師 2 名	継続	臨床運動学	2	後期	2 コマ×4 回 2 コマ×4 回
各施設	補助講師 5 名	継続	評価実習前実技試験	2		6 時間×1 回
所沢中央病院 所沢リハ病院	補助講師 2 名	継続	検査測定法	1		3 コマ×13 回
所沢中央病院	黒田健太先生	継続	内部疾患患者への PT 治療学	2		2 コマ×2 回
所沢リハ病院	池田祐輔先生	継続	神経疾患患者への PT 治療学	2		2 コマ×15 回
		継続	基礎分野演習	3		2 コマ×1 回
		継続	専門分野演習	3		2 コマ×4 回
		継続	総合分野演習	3	2 コマ×3 回	

## OT 学科

依頼施設名	依頼講師名	継続/ 新規	依頼科目名	学年	前期/後期	依頼コマ数
所沢リハ病院	池田祐輔先生	継続	神経内科学	2	前期	1 コマ×15 回
	補助講師 1 名:授業 補助講師 3 名:試験 <sup>※1</sup>	継続 新規	作業療法評価法 II	2		2 コマ×7 回 +実技試験
	補助講師 1 名:授業 補助講師 3 名:試験 <sup>※2</sup>	継続 新規	作業療法評価法 I	1	後期	2 コマ×15 回 +実技試験
	補助講師 1 名 <sup>※3</sup>	新規	作業療法評価法 II	2		2 コマ×7 回
多摩リハ病院	1 名	継続	作業療法管理学 I	1		1 コマ×2 回
千ヶ瀬ホーム	緑川潤一先生	継続	義肢装具学	2		1 コマ×15 回

※1 今年度は補助講師として授業のみ1名ご協力いただきましたが、来年度はさらに実技試験の採点者(または模擬患者)として3名ご協力いただきたいです。

※2 今年度は講義の半数のコマで、補助講師として1名ご協力いただきましたが、来年度はすべての授業での補助講師1名ならびに実技試験の採点者(または模擬患者)として3名ご協力いただきたいです。

※3 今年度は法人依頼をしていませんでしたが、補助講師として毎回の授業に1名協力いただけますとありがたいです。この授業の試験は筆記試験ですので、試験での協力依頼はありません。

なお、授業の場合は補助講師の急遽欠席があっても大きな支障はありませんが、実技試験では予定補助講師の都合が悪くなった場合代替補助講師を調整いただきたいです。また、試験は3グループに分かれての実施を想定しているため、1名(または2名)が法人職員で残りは学内教員による試験というのは、試験の公平性(緊張感など)という点で懸念が生じるため、試験に協力いただける場合は確実に3名必要です。

## ST 学科

## CW 学科

依頼施設名	依頼講師名	継続/ 新規	依頼科目名	学年	前期/後期	依頼コマ数
多摩リハ病院	原島 寛昌先生	新規	社会の理解 I	1	前期	1 コマ×15 回
メイア梅の園	補助講師 1 名	新規	生活支援技術 C I	1		1 コマ×4 回
所沢中央病院	乙津町子先生 小野睦美先生 井田初美先生	継続	医療的ケア	2	後期	4 コマ×5 回

## 2026(令和 8)年度法人臨床訪問(案)

学科名	教員名	希望施設名	内容	時期、回数等
PT	成塚修一先生	多摩リハ病院	法人臨床,実習時指導	月 1 回
	小嶋陽香先生	所沢中央病院	法人臨床,実習時指導	月 1~2 回
OT	岩田一鷹先生	特になし	法人臨床,実習時指導	月 1 回 * 育休利用予定のため要相談
ST	なし			

## 2. 意見交換(外部委員からご意見・ご提案等)

### 外部委員ご意見

人見委員：就職後、専門職としての役割や仕事のやりがいを十分に実感できないまま現場に出てしまうことが課題の一つと考えています。これは学生側の問題だけでなく、医療職としての意義や魅力を、私自身を含め教育側が十分に伝えきれていない点にも要因があると日々感じております。貴校において、医療専門職としての役割ややりがいを実感的に理解できる教育の充実を期待しております。

池田委員：就職後における学習意欲の低下を懸念している。就職後も教育のシームレスな状況を確認していききたいため、早期に目的意識と主体的な教育を増やしてほしい。

赤松委員：生涯学習含め、キャリアデザインについて、学生に提示していればその内容を教えていただきたい。提示していないのであれば、その必要性も含め検討してもらいたい。

### (1)理学療法学科

最終学年を中心とした就職前後のご意見についてであるが、初年次教育の一環で入学前に卒業生との交流、入学後1週間のオリエンテーションによる理学療法士の職域説明や在校生交流にて「職業が決定していること」を自覚させる。その目的およびDP「自ら学ぶ力を基盤とした基本的理学療法に必要な知識・技術ならびに社会性を身につけている。」達成のため、目標設定および各授業を展開している。各実習および授業内で臨床のセラピストによる講義やファシリテーターとして招くことでキャリアにも影響を与えている。実際、「将来、自分もこのような形で学生に教えたい」との意見も聴取している。また最終学年では「企業連携」の一貫で「学習、就職、転職など」の特別講義を行っている。今年度の年内就職内定率90.5%という結果からも、企業側の人手不足、早期化、活動の速さが読み取れる。しかし、学校選びや就職先をAIに尋ねる時代に突入している。現場では、中等教育と高等教育、高等教育と臨床の円滑な接続ができるよう、関係性(技士長クラスではなく、若手や中堅を中心とした人間関係)構築から、その職場でのキャリアビジョンやプランを共有することが必要である。職場に魅力(自分が達成したい目的、尊敬できる先輩など)がなければ、意欲も低下し退職につながると考察する。

### (2)作業療法学科

キャリアプランについてはOT概論(1年次)において生涯学習の必要性と制度について触れながら各自の将来像を検討する時間を設けている。またOT管理学II(3年次)では東京都作業療法学会への参加を行い、専門性の意識づけやロールモデルの発見などの促しを行っている。今後は1・2年次での実技授業において法人職員の協力を多くいただくことでより実践をイメージする機会を多く取り入れていきたい。

### (3)言語聴覚学科

1)卒業生(新入職員)がSTとして就業後、仕事のやりがいを感ぜられずに早期退職してしまうことは、学科教員としても心苦しいことである。学校の教育において、学生に十分にSTとしての「やりがい・楽しさ」を伝えられていないと痛感している。まずは、学科教員が単なる「知識の伝達者」に留まるのではなく、「臨床家として」STのやりがいや楽しさを伝えるように、一層の工夫が必要である。また、「臨床家としてのやりがい・楽しさ」を学生が最も感じられる機会は総合臨床実習であり、実習施設の指導者の先生方と協力していくことが大切である。

2)卒業後(入職後)も臨床家としての知識と技能を自己研鑽することは必須であり、学生時代からその重要性について教育する必要がある。しかし、ほとんどの学生が、学校のカリキュラムをこなし、単位を修得することに一杯一

杯になっているのも現実である。まずは、学校の教員こそが自己研鑽を継続しているロールモデルとなることが求められる。さらに、就職先の先輩上司がロールモデルとなり新人を導いていく環境も重要と思われる。また、学生の知識・技能の習得状況をシームレスに就職先に伝達するために、ポートフォリオの利用も検討していきたい。

3) キャリアデザイン(ライフイベントなどによるキャリアの節目に、長期的展望に立って、どう働き続けるのかを主体的に計画すること)については、ほとんど支援できていないと感じている。しかし、ST 学科に入学する学生の8割以上が就業・結婚・育児などのライフイベントを経ており、キャリアの節目に、長期的展望に立って、どう働き続けるのかを主体的に計画した結果、「言語聴覚士として働く」という選択をしていると推測される。そのため、キャリアデザインを支援するよりも、ST として働き続けていくための支援をすることが大切と思われる。学科としては、卒業前のわずかな時間でしかないが、言語聴覚士協会への入会と研修会への参加、ST 学会への参加・発表、認定言語聴覚士の取得などを通じて、ST の技能を継続して研鑽することを奨励している。

#### (4) 介護福祉学科

介護分野においては、介護が必要な方を支援することにより、ご本人のみならずご家族も安心して生活を送ることができるなど、包括的な役割を担っていることを学生に伝えてまいります。

また、介護業界は近年まで「やりがい搾取」といった言葉で語られることもあり、低賃金の中でやりがいのみを強調して人材を確保するという課題が指摘されてきました。しかし現在では、各種処遇改善加算等の制度整備により、収入面の改善が進んでいることも事実です。こうした現状を踏まえ、介護の仕事は「やりがい」だけでなく、安定した生活設計が可能な職業であることについても併せて伝えてまいります。

就職後の学習意欲の低下については、本学科においても課題認識を共有しております。在学中より、キャリアデザイン教育、実習の振り返り、現場介護職員による説明会等を通じて主体的な学習姿勢の育成に取り組んでおりますが、国家試験後の意欲維持については、さらなる工夫が必要であると考えております。今後は、メディケア梅の園からの講師派遣をはじめとする定期的な連携を通じて、就学から就業へと切れ目のない教育体制の構築を推進してまいります。

生涯学習を含めたキャリアデザインについては、重要な視点であると認識しております。現在は、就職ガイダンスや卒業後の資格取得の紹介等を通じて段階的に提示しておりますが、体系的なキャリア教育としては十分とはいええない状況です。今後は、キャリア形成のロードマップの作成や生涯学習体系の可視化を行い、在学中から長期的な職業観を育成できるよう、教育課程への位置付けを検討してまいります。

#### (5) 岩戸

このたびは、専門職としての役割理解、就職後の学習意欲、生涯学習およびキャリアデザインに関する貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございます。委員の皆様からいただいたご指摘は、いずれも「専門職として継続的に成長する基盤を、在学中にいかに形成するか」という重要な課題に通じるものであると受け止めております。本校ではこれまで、臨床実習や事例検討、国家試験対策等を通じて専門的知識・技術の修得を図ってまいりましたが、①医療専門職としての使命ややりがいを実感的に理解する機会②卒業後も主体的に学び続ける姿勢の育成③生涯を見据えたキャリア形成の明確な提示という点については、さらに充実を図る必要があると認識しております。今後は、①実習前後のリフレクション強化や卒業生との交流機会の充実により、専門職としての役割とやりがいの実感的理解を深めること②早期から目的意識を醸成し、主体的学修を促す教育方法を拡充すること③生涯学習およびキャリアデザインの視点を教育課程の中に体系的に位置付けること、を柱として、教育内容および教育方法の改善を検討してまいります。本校といたしましては、卒業を到達点とするのではなく、専門職としての成長の出発点と捉

え,就職後も学び続ける力を育成する教育の確立を目指してまいります.今後ともご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます.

総括：臨床ではインセンティブや給与アップなどもモチベーションにつながると考えるというご意見をいただき,学校では引き続き職の理解と,職のすばらしさを伝えていく.

### 3. その他

#### (1)理学療法学科

「令和9(2027)年に向けてのカリキュラム(案)」別紙参照.

第1回会議でご提示した内容から加筆してある.ご意見を頂きたい.

#### (2)作業療法学科

「令和9(2027)年に向けてのカリキュラム(案)」別紙参照.

人見委員：留年しそうな科目を散らしたり,単位数を減らしたりなどは学生負担が軽減すると考えられる.

次回

令和8年6月15日(月)11時

学院ホール 201 予定